

経営比較分析表（平成29年度決算）

大阪府柏原市 市立柏原病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	-	ド訓	救 臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
70,118	18,350	非該当	7：1	

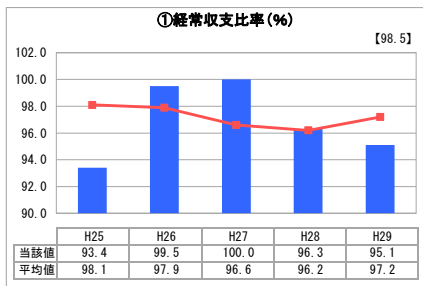
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

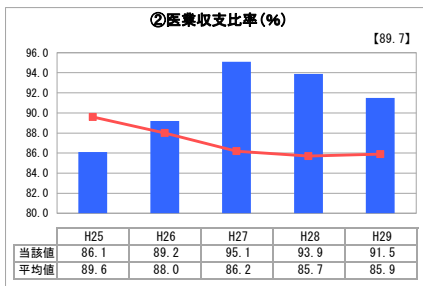
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
220	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	220
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
220	-	220

グラフ凡例
 ■ 当該病院値（当該値）
 - 類似病院平均値（平均値）
 [] 平成29年度全国平均

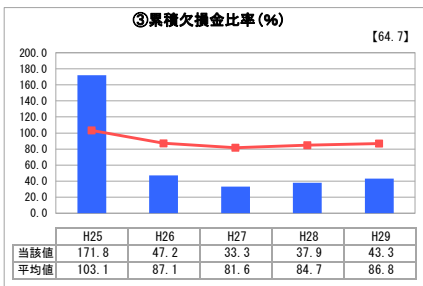
1. 経営の健全性・効率性



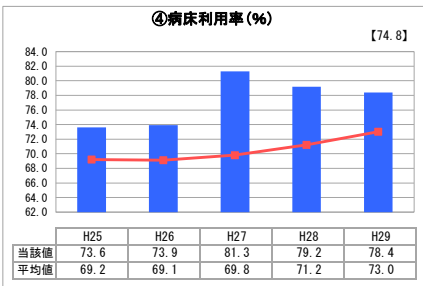
「経常損益」



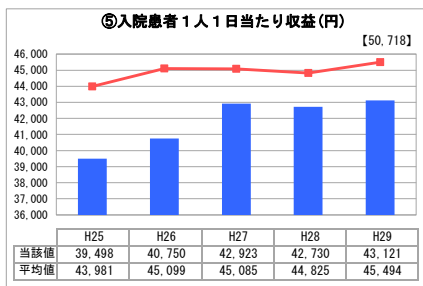
「医業損益」



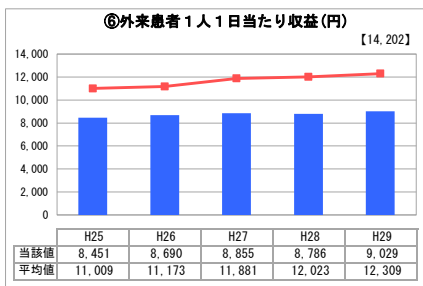
「累積欠損」



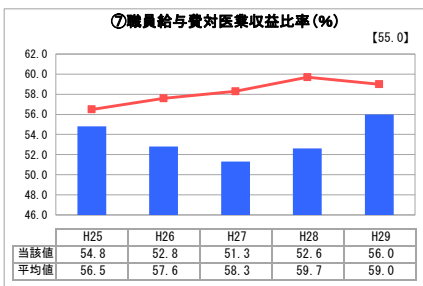
「施設の効率性」



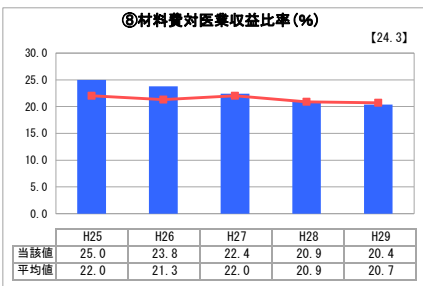
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

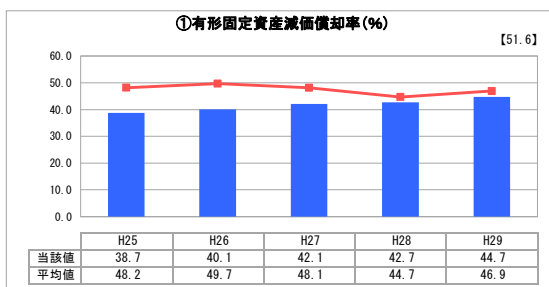


「費用の効率性①」

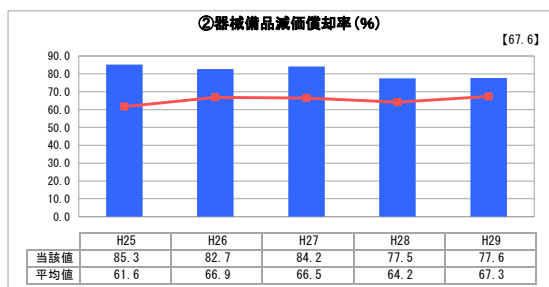


「費用の効率性②」

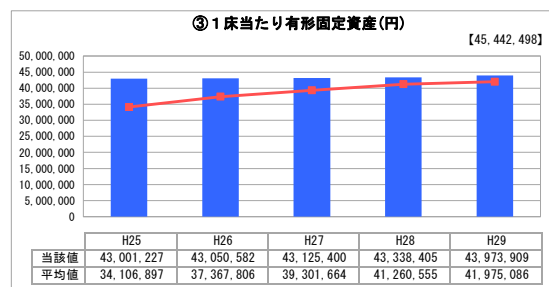
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当市では、地域医療構想を踏まえた「市立柏原病院新改革プラン（平成28年度～平成32年度）」を平成28年度に策定している。その中で当院の役割として、
 ・救急診療の充実により急性期医療を担うこと
 ・地域の周産期・小児医療に貢献すること
 ・緩和ケアを含めたがん診療を担うことを掲げている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度は緩和ケア病棟を開設するなど患者獲得を図ったが、患者数が伸びず病床利用率を低下させた結果となった。そのため医業収支比率・経常収支比率は前年度と比較すると悪化した。類似病院が過去4年間、徐々に病床利用率を上昇させている一方で、当院は病床利用率を悪化させている。

費用面については、職員給与費対医業収益比率や材料費対医業収益比率は類似病院を下回っている。しかしながら、職員数の増加等により職員給与対医業収益比率は前年度より3.4ポイント増加している。
 一方、収益面ではDPC（包括評価方式）と出来高算定による入院料の算定方式の違いなどもあり、入院患者1人1日当たり収益及び外来患者1人1日当たり収益が全国平均及び類似病院平均を下回っている。

2. 老朽化の状況について

平成17年度に現在の新棟が完成し、比較的新しいことから、有形固定資産全体の減価償却率は全国平均及び類似病院平均を下回っている。
 一方で、経営不振による医療機器の更新の遅れなどにより、器械備品の減価償却率は高くなっており、他の有形固定資産と比較して老朽化が進んでいる。

全体総括

現状では病床利用率の低迷などにより経常収支の黒字化が達成できておらず、老朽化が進んだ医療機器等の更新を経常収益で賄えない状態となっている。

平成28年度に策定した「市立柏原病院新改革プラン（平成28年度～平成32年度）」と現状との間に齟齬が生じているところもあり、改訂を行い、経営改善を図っていく。

具体的には、救急搬送患者の受入数増加、病診連携強化による紹介患者獲得や緩和ケアを含むがん診療を積極的に行うこと等、これまでの取組みに加え、新たな患者獲得に向けた病床機能の転換などを検討・実行し、早期に経常収支の黒字化を図っていく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。